

## 人生の岐路に立つ君に未来の自分が見えるか

### ＜進路説明会（R5.11.24）校長 開会あいさつ＞

いよいよ中学校生活も残すところ3か月余りとなりました。登校日で数えると59日です。

保護者の皆さん、これまでの子育てを振り返ってみてどのような心境でしょうか。それぞれにいろいろな思いが詰まった15年の年月であったかとは思いますが。特にこの3年間は、本当にあつという間だったのではないのでしょうか。

私も二人の子どもをもつ親として我が身を振り返ってみますと、かわいかわいばかりだった赤ちゃんからの幼児期、そして小学校低学年くらいまでは何とか素直で従順でしたが、高学年くらいになると次第に自我が芽生え、思春期真っ盛りの中学生になると、事あるごとに「うるさいなあ」「わかってるってば」「みんなそうなんだよ」などの言葉の猛攻を受けながらも、あつという間の中学校時代が過ぎて、気が付いたら成人していた、そんな感覚です。

あと約3か月で、ここにいる子どもたちをご家庭にお返しすることとなります。この3年間、子どもたちや保護者の皆さんのご期待に添えなかった部分は正直多々あったかとは思いますが、最後まで全力でこの3年生たちを支えてまいります。

さて、あらためて申し上げるまでもなく、当然のことながら中学校は、塾でも託児所でもありません。かといって社会で必要な処世術や世の中での要領のいい生き方や上手な立ち回り方を教える場所とも考えておりません。日々子どもたちと向き合いながら願っていることは、この子どもたちがここを巣立ってから、将来、一社会人として幸せに生きていってほしいという、その一点のみであります。

具体的にいうならば、生きる希望を見失ったりせず、向かうべき目標を見誤ったりせず、迷惑行為や犯罪に手を染めたりして他人に

迷惑をかけたりせずに、人として当たり前前の生き方をしてほしいということ、そして、誰と比べることもないその人なりの幸せな人生を歩んでほしいということです。

以前、全校生徒にも話しましたし本たよりの前号でも触れましたが、私の幼馴染のK君は、学校の成績は全く振るわず、中学校の今頃のこの時期、「俺なんか入れる高校あるのかなあ？」なんて、よく相談されたものでした。

しかし、今では、彼は大きな会社の経営者として地元の名士であり、もちろん年収も私の何倍もある身です。

人間にとって幸せの基準はそれぞれでしょうが、彼が社会的な成功を収めたことや自他ともに認める幸せな暮らしぶりなのは紛れもない事実です。しかし、彼は、学校での勉強の成績が良かったわけでも、スポーツや絵を描くのが特段得意だったわけでも、何か他人より秀でた才能があったわけでもありません。

ただただ誰からも掛け値なしに愛される人物だったのです。いつでもどこでも笑顔で誰にでもあいさつができる人間でした。掃除や奉仕作業には人一倍黙々と取り組むし、誰にでも底なしに優しくて親切だったのです。彼の周りにはいつも人が集まり、彼が困っている時はいろんな人が自分のことのように彼を助けてくれました。

この進路選択の大事な岐路に立ち、これだけは申し上げたい。成績がいいとか悪いとか、どこの高校に進学したとか、どこの大学に合格したとか、どんな仕事に就いたとか、どこの会社に就職したとか、また、学生時代になかなか学校に足が向かない状態だったとか、多少やんちゃなこともした、などというのは、その人の価値を決定づけるものではないはずです。

ただ、それはそうだとしても、目標に向かって立ち向かわなかったり安易に逃げたりせずに、全力でもがいてほしいのです。人生で挫折がプラスとして働くことはもちろん多々ありますが、努力をせずに失敗や挫折を不必要に重ねることもどうかと思います。

そうならないための準備を、今日からの3か月しっかりお願いしたいのです。特に今年度は、公立高等学校の選抜試験がWEB出願の初年度です。本日の説明をもとに、親任せ、子ども任せ、学校任せにならないよう、お互い何事も自分事として捉えながら、真摯に進路について向き合ってまいりましょう。